

心の散歩道



トイレでの一考

日蓮宗教化グループ「プラスワン」発行
『心の散歩道』より

連

載 4

お霊供膳を見ておいて

先日お寺で法事がありました。若い施主さんからそれまでに何度か連絡をいただきました。準備するものは…と問われ、「お塔婆とお霊供膳、お供物、

お花などを」と話しました。当日おいでになり、お位牌をまつり、お供をしました。お霊供膳がありません。料理店のパック膳が二セットあるのが目にとまりました。「これ、一つはお上人さん召しあがってください。もう一

つをお供えして」と言われ、ついエツこれを！」と、声が出てしまいました。そういえば、昨年伺った家では、お霊供膳はありましたが、うどんと肉のから揚げのようなものだけで驚いたことがありました。



若い方にはこちらが気を付けて話さないで、ちゃんと伝わらないことがよくありますね。

このお霊供膳の失敗があつて以来、私はご法事に伺つた時、若い方が同席してくれていたなら「お霊供膳を見ておいてね」と、お願いするようにしました。親が若いお嫁さんにも見てもらつたり、一緒に作つたりしてないと、まったく伝わらなくなりますね。

先日の法事で若い学生さん達に話しましたら、若いお嫁さんや親戚の方までお霊供膳を見てくれました。その家のおばあさんが、「ちゃんと話してくれて嬉しかったです」と涙ぐんでお礼を言うてくれました。

誰かしてくれるだろう...ではダメですね。機会あることに話したり見てもらつたりしていく努力が必要な時代になりました。

心の曇りがとれる時

以前は「車は一家に一台」と言っていました、今では「車は一人に一台」

なつてきました。ちょっとそこまでも、すぐに車を使つてしまいます。

車の数も増えましたが車のサイズも以前に比べると大きくなりました。道路の幅はそれほど変わらないのに、車のサイズは大きくなって自動車の運転はますます大変になってきました。

私の家の近くにもこうした通行の難所があります。幹線道路につながつてゐるため通行量が多いのに、自動車のすれ違いができませんほど細い道路が交差した交差点です。カーブミラーもありますが、お互いによほど注意してないと見えないこともあります。大きな事故はないものの小さな接触事故は頻りに起ります。

いつの頃からか、そのカーブミラー脇に近所のおじいさんが立つようになりしました。最初はぶつきらぼうに立つて自動車を眺めているだけでした。何のために立っているのかわからなくて不思議な感じがしていました。それが次第に自動車があると、止まれとか、回れとか、進めとかの手振りをするようになってきました。自動車同士お互

いに見えにくいところなので助かります。冬の寒い朝も暑い夏の日中も帽子一つかぶらないで、カーブミラー脇に立ち続けます。毎日会つてゐるうちに、お互い会釈を交わすようになってきました。こちらが頭を下げると時々につこりとされます。おかげで自動車の通行も以前よりスムーズになりました。

ところが、ある日、実はこのおじいさんは認知症なんですよという近所の方の話を聞きました。おじいさんは認知症が進み始めてから人の役に立つことを始めたそうです。

人の心は本来、善だといわれますが、三毒煩惱ぼんごうがそれを曇らすのだといわれます。こんな形で心の曇りが取れることもあるのだと不思議な気持ちになりました。

あんのんはみなさまの
思いやりがたよりです

教化センター活動資金ご支援のお願い

「ご支援者」

(敬称略)

観音結社 殿 大村市
妙蓮寺 殿 宇久町

二名様 合計二〇、〇〇〇円

長崎教化センター事務局
〒八五九二二二三

長崎県南島原市布津町内二四〇五 妙法寺内
HP <http://www.hello-buddhism.jp/>
E-Mail center@hello-buddhism.jp

